

2021年6月21日

各都道府県産婦人科医会会長 殿

医会の要望は2021年度「骨太の方針」に掲載

公益社団法人 日本産婦人科医会
会長 木下勝之

「経済財政運営と改革の基本方針2021 日本の未来を拓く4つの原動力
～グリーン、デジタル、活力ある地方創り、少子化対策～」(いわゆる骨太方
針2021)が経済財政諮問会議での答申を経て、令和3年6月18日 閣議決定
されました。(抜粋添付)

その中に、この5月20日に発足した「地域で安心して分娩ができる医療施設
の存続を目指す議員連盟」の鴨下一郎会長名で田村厚生労働大臣と三原副大臣
に提出した提言趣旨が、議連発足から1か月足らずの短期日でしたが、骨太の方
針に掲載されましたのでご報告いたします。

31ページに、2. 社会保障改革 (1) 感染症を機に進める新たな仕組みの構
築の中に、「**地域の産科医療施設の存続など安心・安全な産科医療の確保**」と

17ページに、4. 少子化の克服、子供を産み育てやすい社会の実現

(1) 結婚・出産の希望を叶え子育てしやすい社会の実現の中に、

「**結婚支援、不妊治療への保険適用、出産費用の実態を踏まえた出産育児一時金**

の増額に向けた検討、産後ケア事業の推進、「新子育て安心プラン」及び「新・放課後子ども総合プラン」の着実な実施」が盛り込まれました。

このことは、議連会長鴨下一郎、会長代行武見敬三、幹事長三ツ林裕巳、事務局長田畑裕明の各先生方の格別なご尽力はもとより、ご参加いただいた各地域選出国會議員の皆様のご支援の賜物でした。

また、議連設立に当たりご指導いただいた日本医師会中川俊男会長、そして議連に参加いただいた渡辺弘司常任理事に深甚なる謝意を表します。

皆様に、改めて厚く御礼申し上げます。

このように僅か1行、2行の文言ですが、医会の要望がそのまま骨太の方針に載ることは極めて異例のことです。今後は、国の方針として産科医療に関する方針の予算化と産科当直が宿直・日直として認められる仕組みづくりを行政と共にやり遂げたいと思います。

なお、それぞれの地元の会員各位と問題を共有したいと思いますので恐縮ですが、お知らせいただきたくお願いいたします。

今後共、ご支援とご指導をよろしくお願いいたします。

取り急ぎ一筆ご報告申し上げます。